

## 子宮頸がん予防啓発リーフレット発行と無償提供のご案内

～ 11月には子宮頸がん予防啓発月間です ～

認定NPO法人キャンサーネットジャパン（東京都文京区 理事長 岩瀬 哲）では、このたび子宮頸がん予防啓発リーフレット「みんなにもっと知ってほしい 子宮頸がんの予防のこと」を、横浜市立大学附属病院産婦人科宮城悦子教授監修のもと、一新いたしました。新しい情報を織り込み、わかりやすくまとめています。

このリーフレットを自治体や、教育機関、病院などに先着3万枚を無償で提供します。成人式での配布などにご活用ください。また、継続的にリーフレットを無償提供できるよう、企業等より支援を募ります。

ほとんどの子宮頸がんは、性交渉によりHPV（ヒトパピローマウイルス）に持続感染することによって引き起こされます。子宮頸がんは、若いうちにHPVワクチンを接種することによってHPVの感染を予防し、さらに定期的な検診により早期に発見、治療することで子宮頸がんによって亡くなることを防ぐことができる、予防しやすいがんです。それゆえに、若い世代が子宮頸がんやその予防の知識を備えておくことが大切です。

2022年4月から小学校6年生～高校1年生相当の女子にHPVワクチンの積極的勧奨が再開されました。一方で、積極的勧奨がストップしていた間に接種機会を逃してしまった女性のために「無料キャッチアップ接種」が提供されています。対象は、誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日の方で、来年1月に成人式を迎える20歳の女性が含まれます。子宮頸がんの定期検診は20歳から始まることもあり、ぜひ、このリーフレットによって、無料キャッチアップ接種と検診について、正しい知識を身につけてほしいと考えています。

また、HPVは、男女問わず、性経験がある人の80%以上が一生に一度は感染すると言われています。男性も、HPVの持続感染により中咽頭がんなどのがんにかかるリスクがあるため、決して関係がないことではありません。

子宮頸がんやその予防のこと、HPVのことを知っておくことは、特に、今後、パートナーとの関係を築いていくことになるであろう新成人をはじめ若い世代にとって非常に重要なことです。このリーフレットが広く配布されることで、男女ともに若い世代の一人ひとりが自分ごととして考え、それぞれが予防に向けて行動に移すようになることを期待し、自治体、教育機関、病院向けに、リーフレットの無償提供を行います。



### 【本件に関するお問い合わせ先】

認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン 担当：多田  
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶ノ水 K&K ビル 2F  
Mail. [info@cancernet.jp](mailto:info@cancernet.jp) / Tel. 03-5840-6072 / Fax. 03-5840-6073

リーフレット：「みんなにもっと知ってほしい 子宮頸がんの予防のこと」

<https://www.cancernet.jp/wp-content/uploads/2023/10/twr2023-reef-cut.pdf>

監修：宮城悦子（横浜市立大学附属病院 産婦人科 教授）

2023年9月制作

四つ折り、観音折り（横105mm×縦210mm）

制作：認定NPO法人キャンサーネットジャパン

無償提供枚数：先着30,000枚まで

無償提供先：自治体、各教育機関（小学校、中学校、高校、大学、専門学校等）、病院



2023年9月制作

女性はもちろん、男性も HPVによるがん発症のリスクがあります！

多くの方が一生に一度は感染 ヒトパピローマウイルス（HPV）とは

子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）ですが、「HPV感染＝がん」ではありません。HPVは、実はどこにでも存在するウイルス。主に性的接触で感染し、性接触がある人の80%以上が、一生に一度は感染すると言われています。

HPVは通常、体の免疫力で自然に検出されなくなります。しかしまれに持続感染する場合があります、さらにそのうちの一部の細胞が、がんへと進行していきます。

男性も無関係ではありません

HPVは、男女問わず感染の可能性があります。コンドームでも完全に防ぐことはできません。またHPVの持続感染は、様々ながんの発症に関与しています。

HPVが引き起こすがん

女性	男女共通	男性
子宮頸がん 陰がん	中咽頭がん (のどのがん) 肛門がん 外陰がん	陰茎がん 中咽頭がん (舌の癌) 肛門がん

中咽頭がんは 定期的に検診に受診！

みんなにもっと知ってほしい

子宮頸がんの予防のこと  
検診・ワクチン

がんは「自分には関係ない」と思っていないませんか？

いま 20～30代の女性に増えている 子宮頸がんとは

子宮頸がんとは、子宮の入り口（子宮頸部）にできるがんです。若い世代で増加傾向にあり、現在、日本では毎年約1.1万人が子宮頸がんと診断され、毎年約2,900人が亡くなっています。\*

子宮頸がんは、子宮の入り口（子宮頸部）にできるがんです。若い世代で増加傾向にあり、現在、日本では毎年約1.1万人が子宮頸がんと診断され、毎年約2,900人が亡くなっています。\*

子宮頸がんは予防できます

子宮頸がんの発症には、ほとんどの場合、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスが関与しています。HPVは、一度でもセックスの経験があれば、男女問わず、だれでも感染の可能性があります。

しかしご安心を。子宮頸がんは、適切に行動すれば予防ができるがんなんです。予防のためにできることは2つ。HPVワクチンの接種と、定期的な検診です。

みんなにもっと知ってほしい

子宮頸がんの予防のこと  
検診・ワクチン

～すべての人に関係があるあなたも、パートナーも未来ある子供たちも～

もっと、知ってほしい、女性のこと

子宮頸がん啓発キャンペーン  
ティール&ホワイトリボン

監修：宮城悦子（横浜市立大学附属病院 産婦人科 教授）

ティール&ホワイトリボンは、近年20代～30代の若い女性に増えている「子宮頸がん」の啓発シンボルです。

詳しくは Web で

<https://www.cancernet.jp/cancer/cervical>

認定 NPO 法人キャンサーネットジャパンで実施している「ティール&ホワイトリボンプロジェクト」は、子宮頸がんについて子ども達に正しい知識を普及しています。

CancerNet Japan

制作：認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン  
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶ノ水 K&K ビル 2 階  
電話：03-5840-6072 mail: info@cancernet.jp

初めての性交渉を経験する前が最も効果的！  
小学校6年生～高校1年生相当の女子は、HPV ワクチンを公費で受けることができます。

Q. どこでワクチン接種を受けられますか？

A. お近くの医療機関（婦人科、小児科など）、住民票のある自治体でご相談ください。接種回数は2～3回。ワクチンの種類や年齢により回数や期間が異なります。※2回接種は15歳未満の女子で9価ワクチンのみです。

Q. 接種の対象年齢を過ぎてしまいました。→

A. 接種機会を逃してしまった女性のための「無料キックアップ接種」があります。誕生日が平成9年4月2日～平成19年4月1日の女性が対象です。

Q. セックス(性交渉)の経験後でも効果はありますか？

A. 性交渉の経験後でも、まだ感染していないHPVの予防効果が期待できます。ただし、すでに感染しているウイルスを排除する効果はありません。

Q. 副反応が心配です。

A. 接種部位の痛みや腫れなどは80%以上の人に生じるとされます。また、まれに重いアレルギー反応などが起こることがあります。気になる症状が出た時は、すぐに医師に伝えましょう。

ワクチンにより子宮頸がんにかかるリスクが低下するデータがあります

どちらも重要！  
子宮頸がんを  
防ぐためにできる  
2つのこと

ワクチン  
HPVワクチンで感染を予防

検診  
子宮頸がん検診で早期発見

定期的な検診で、がんになる手前で見つけることができます。

子宮頸がん予防にワクチン接種はほとんど効果的。でも、がんを100%防げるわけではなく、「がんになりそうな細胞があるか（がん病変）も調べることが重要です。早期に対処できれば、子宮を失わずにがんを予防の基本です。

しかし検診では、がんになっていないかだけでなく、「がんになりそうな細胞があるか（がん病変）も調べることが重要です。早期に対処できれば、子宮を失わずにがんを予防の基本です。

もしも検診では、がんになっていないかだけでなく、「がんになりそうな細胞があるか（がん病変）も調べることが重要です。早期に対処できれば、子宮を失わずにがんを予防の基本です。

前がん病変が見つかったら、経過観察でよい治療が必要になりますが、担当医とよく話し合ってください。

Q. 検診はどこで受けられますか？

A. 医療機関（産婦人科）で受けられます。住民票のある自治体から定期的にクーポン券をもらえることもあります。

Q. 特に症状はありませんが。→

A. 検診は症状がないときに受けるものです。また子宮頸がんは、初期の段階では自覚症状がありません。症状がなくても定期的に検診を受けることが大切です。

Q. 検診ではどんなことをしますか？

A. 専用の器具を使い、子宮頸部の細胞を採取します。痛みを感じることはほとんどなく、数分で終わります。気になる場合は女医さんのいる病院を探すのも手です。

Q. 検診のデメリットはありますか？

A. 少し出血することがあります。また、検診の精度は100%ではありません。がんを発見できなかったり、がんがないのにがんの疑いがある状態が当たりたりする可能性もあります。しかし、それらの可能性は低く、検診を受けるメリットはデメリットを上回ることで証明されています。

不正出血などの自覚症状がある場合、保険診療として産婦人科を受診することが重要です。

【本件に関するお問い合わせ先】

認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン 担当：多田  
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶ノ水 K&K ビル 2F  
Mail: [info@cancernet.jp](mailto:info@cancernet.jp) / Tel. 03-5840-6072 / Fax. 03-5840-6073

## NEWS RELEASE

◆自治体、各教育機関（小学校、中学校、高校、大学、専門学校等）、病院のみならず

子宮頸がん予防啓発リーフレット無償提供をご希望の場合は、下記よりお申込みください。

申込URL : <https://ws.formzu.net/dist/S79257365/>



※送料無料

※配送希望日の14日前までにお申し込みください

※2023年度内のお申し込みは原則1団体1回まで（2回目以降のお申込みは、在庫状況により検討いたします）

### ◆ご支援のお願い

本リーフレットの継続的な無償提供が行えるよう、印刷費と送料のご支援を募ります。ご賛同いただけます方は、下記よりご寄付をいただけますと幸いです。

たとえば、100,000円のご支援で 10,000枚のリーフレットの印刷と送料を賄うことができます。企業であれば、その10,000枚のリーフレットに、支援企業のロゴを掲載して印刷し、配布いたします。

一人でも多くの方に正しい情報を届け、子宮頸がんの罹患数を減らすことができるよう、温かいご支援をよろしくお願いたします。

ご寄付はこちらから

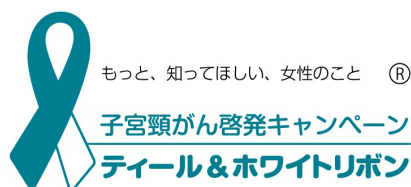
<http://www.sikyukeigan.net/donation.html>



お問い合わせ先：

認定NPO法人がんサーネットジャパン 担当：多田

[info@cancernet.jp](mailto:info@cancernet.jp)



### <認定NPO法人がんサーネットジャパン>

1991年に発足し、がん患者が本人の意思に基づき治療に臨むことができるように、科学的根拠に基づく情報発信を行うことをミッションとしています。2001年にNPO法人化、2007年1月に専用事務局を開設し、現在は東京と大阪を拠点に全国で活動しています。2016年8月認定NPO法人となり、現在の主な活動は、各種がんについての啓発イベント、全国のがん診療連携拠点病院等に設置されている「もっと知ってほしいシリーズ冊子」の制作、養成講座や認定試験など教育事業等も実施しています。これらの活動を通して、がんと向き合う人々が自分らしくがんに向き合える社会を実現することを目指しています。希少がんも含め、あらゆるがんに関する最新医療情報発信のため、2014年より毎年開催しているジャパンがんフォーラムは、がん患者・家族のみならず一般市民を対象とした最大級のがん啓発イベントです。

<https://www.cancernet.jp/>

### 【本件に関するお問い合わせ先】

認定 NPO 法人がんサーネットジャパン 担当：多田

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶ノ水 K&K ビル 2F

Mail. [info@cancernet.jp](mailto:info@cancernet.jp) / Tel. 03-5840-6072 / Fax. 03-5840-6073